

金融広報アドバイザーとは、金融広報委員会からの委嘱を受け、各地において暮らしに身近な金融経済等に関する勉強会の講師を務めたり、生活設計や金融・金銭教育の指導等を行う金融広報活動の第一線指導者です。

金融広報 アドバイザーの 紹介

本当に大切なことを、熱く伝えたい！ 人の心を動かす講演で日々奮闘中

「いつまでも、元氣と気付き、を与えられる金融広報アドバイザーでいることがライフワーク」という小山正宏さん。石川県金融広報アドバイザー研修会の「副リーダー」としても活躍中です。

* * * * *

損害保険会社の営業職として19年間勤務ののち、現在は複数の保険会社の各種商品の中からニーズに合ったものが選べる、契約者本位の保険代理店業に転身。金融広報アドバイザーとして活躍をする以前から、保険の知識や生活設計の大切さを伝えるセミナーを個人で開催し、手作りチラシを配布していました。得意分野は「生活設計」「保険」「資産運用」ですが、保険以外の知識は損害保険会社を辞めてから学び、資格を取得したものがほとんどだと言います。

「損保を辞める1年ほど前、小さな町工場を経営している男性か



ら、『そろそろ60歳。最後の蓄えとして現金で1億円貯めたが、一緒にこの先の人生の写真を考える手伝いをしてくれないか』と頼まれたのですが、私には答えるノウハウがありませんでした。その時、かけがえのない人生を創造していく工程に私が役に立つのであれば、なんとやり甲斐のある仕事だろうと思ったのです」。

小山さんは日頃から「教養としての金融知識は私の担当ではありません。活用してもらいたい。役立ててもらいたい。」をモットーとしています。そのため、講演では必ず「面白かった」だけでなく、「そうだったのか！」「早速やってみよう!!」と行動に移してもらえように工夫しています。

「私の役目は『元氣』という名前

の波に、知識を乗せて届けること』。それぞれ的人生、元氣に前向きに生きてもらいたいという思いを腹の底にしまつてーと、つつい熱く語ってしまうのが小山流です」。

これからは誰もが高齢社会への準備をすることが必須。そのために、リタイアするときに3千万円程度の金融資産が見込めるようにライフプランを設計してもらいたいと小山さんは言います。講演では具体的なお金の貯め方、節約の仕方、ライフスタイルの見直しなど、伝えたいテーマは本当に切実感にあふれています。

「仕事や日々の生活が忙しい30〜50代の現役世代の人にも、私の講演を聞いてもらいたいですね。今気付いて生活スタイルをチェンジすれば、家計への効果はより大きくなりますからね」。

これからも、小山さんの挑戦はまだまだ続きます。

石川県金融広報委員会
金融広報アドバイザー

小山正宏